

しかし、受入量については、操業間もない状況ではあるものの、受入能力からすると、まだ十分に余力がある状況となっています。

こうした状況において、資源循環工場の各事業者に、日頃の活動を通じて感じるリサイクル促進の課題などを尋ねました。各施設のリサイクルの種類などによって、それぞれ抱える課題は異なるものの、主な意見としては、

- ① リサイクル処理は、単なる廃棄処分よりコスト高となるが、排出事業者にとっては、最終的には価格が判断材料となることも多く、リサイクルとしての付加価値が取引に反映されにくい。
- ② リサイクル製品の流通・販売の促進には、品質管理や実証試験により、製品の信頼を得ていく必要があり、取引が軌道に乗るまでには、相当程度の時間を要する。
- ③ 事業系一般廃棄物のリサイクルを促進するには、市町村の枠を超えた取組が不可欠であり、より一層の市町村の理解が不可欠である。
- ④ 市町村の廃棄物処理施設や県の最終処分場の運営が、廃棄物の需給面や価格設定などで、民間リサイクル事業の展開に影響を与えている。

などとなっています。

こうした意見からは、市場における環境コストの問題や、自治体等の廃棄物処理・リサイクルへの関わりが、民間活力により事業を進めていく上での課題となっていることがうかがえます。

(2) 最先端技術の導入

ア 資源循環工場のリサイクル技術と特徴

リサイクルを一層促進していくためには、安全性の向上や効率性・経済性の観点から、良質の技術が開発されていくことが必要となっています。

そこで、資源循環工場では、民間の知識やノウハウを生かし、常に研究・開発や、先端技術の導入に努め、今後の廃棄物問題の解決に先導的な役割を果たしていけるよう努めることとしています。

このため、事業者の選定段階において、最先端技術の導入を評価項目の一つとするとともに、事業者・県・地元と締結している運営協定においても、研究・開発、最先端技術の導入に努めることを目標として盛り込んでいます。

また、研究施設を設ける場合には、研究施設の敷地について、借地料を減額するなど、研究・開発の促進を図っています。